

“自然史王国”信州を歩く ～なんじゃもんじゃの蛇紋岩編～

平成27年度第1回自然ふれあい講座を、7月26日に白馬村八方尾根で開催しました。この企画は過去2回が天候不順により中止になっていたもので、今回3度目の正直という意気込みで開催に臨みました。その結果、当日は見事に晴れわたり、心配された台風の影響もほとんどなく、白馬三山をはじめとする「後立山連峰」を一望しながらの講座となりました。

ゴンドラとリフトを乗り継ぐと、そこはもう標高1800mを超える山の世界です。山荘から八方池までの標高差約250m、水平距離約2kmの区間において、ところどころで解説や意見交換をまじえながら総勢21名が一緒になって歩きました。下界は30℃を超える暑さのようでしたが、尾根の上では雄大な山々と今を盛り咲く花々を眺め、吹き渡る涼風をたっぶり味わうことができました。



自然ふれあい講座の様子
(背景の山は後立山連峰)

今回のテーマは「蛇紋岩(じゃもんがん)と八方尾根の自然」です。講座では、最初に実物を見ながら蛇紋岩の特徴をお話しました。「蛇紋岩」という岩は、その名称が変わっているだけではなく、地下深部からもたらされた特別な由来と特徴をもっています。

そもそも蛇紋岩はどこからやってきて、普通の岩石

とどうい違いがあるのでしょうか。また、この岩があることによって、八方尾根には他では見られない固有の植物や独特の植生景観が発達します。「植生の逆転現象」とはどういう意味なのかについても一緒に考えました。何気なく通りすぎてしまいそうな場所に、実はとても大事な見どころがあることも、参加者全員で確認することができました。



蛇紋岩植物のひとつ
クモミミナグサ

当日は「信州山の日」でもあり、たくさんの方が訪れていました。「自然史王国信州を歩く」という講座は、自然の歴史に着目しシリーズ化した講座で、これまで9回にわたり県内各地で場所とテーマを変えて開催してきました。今回の参加者の中には、神奈川県や埼玉県から申し込まれた方や、日頃山のガイドをされている方もおられました。講座を通して、八方尾根だけでなく、信州ならではの自然の魅力が、県内外のより多くの人に伝わることを願っています。

なお、このほど「自然の歴史を生かすエコツアーの手引き(研究プロジェクト成果報告)」が出来ました。興味のある方は下記のURLをご覧ください。ダウンロードもできます。(企画担当 富樫 均・石田祐子)

(URL <http://www.pref.nagano.lg.jp/kanken/chosa/kenkyu/ecotourism.html>)